

- 2003-01-01 (水)

- 西脇時報

平成十五此新年、 平成 十五 此に年新まる、 餐一飲食

七十余三餐且眠。 七十に三を余して 餐い且つ眠る。 定分一天命

唯合人生定分有、 唯合に人生は 定分有り、 無門大道一形而上世界

無門大道是壺天。 無門の大道 是れこてん壺天。 壺天一別天地

七十と言えば昔は稀な歳、現在はごろごろいて為る事が無い、実に勿体ない話。  
人にはそれぞれの天命がある。しかし、大道は門なく十方に通貫、心の世界は自由闊貧乏もなければ不況もない別天地

東風習々送春回、 東風習々として 春を送って回る、

時見社頭孤老梅。 時に見る社頭 孤老の梅。

馥郁清香守分久、 馥郁たる清香 分を守って久し、

主人遺訓意中来。 主人の遺訓 意中にし来る。

昨年は菅原道真公の千二百年祭。全国各地で盛大に祭礼が行われた。

日本の伝統は、分を守って礼節を重んじ、質素を旨とし勤勉実直、だっただが何時の間か指針が狂った。分を忘れた野望に悲劇は起こる。バブルまた然り。

記念行事といえば、母校・小野高校も昨年開校百周年。

多くの人材を輩出してなほ今日、教育の基幹校であることは心強く頼もしい限り。

仰観高峻播磨巖、 仰ぎ観る高峻 播磨のいただき巖、

俯見清流加古川。 俯して見る清流 加古の川。

立志青雲柳城阜、 立志す青雲 柳城のおか阜、 柳城一一柳藩の所領に因る

鬩風脈々百周年。 鬩風脈々として 百年をめぐり周る。 鬩風一鬩II校 校風

笠形山が、播磨富士と呼ばれるようになったのは何時頃からなのか。嬉野台あたりから見ると、千が峰の方が相応しいようにも思える。

形山頂夕笠陽沈、 笠形山頂 夕陽沈み、

白雪千峰紫色侵。 白雪の千峰 紫色に侵す。 閑愁一静かに起こるわびしさ

一片閑愁早春夕、 一片の閑愁 早春の夕、

老来何耐故園心。 老来何ぞ耐えん故園の心。 故園心一故郷を思う心

どこの土地でも、春夏秋冬、山には特別の思いがある。北播磨の山々は、早春の景が特に素晴らしい、と私は思う。

窓前飛雪入池中、 窓前 雪飛んで池中に入る、 微恙一軽い病

微恙還宜吟骨雄。 微恙ま還たよ宜し 吟骨さか雄んなり。 吟骨一歌心

故友今朝花信報、 故友 今朝 花信を報ず、 故友一旧友・親友

經過旬日到東風。 旬日を経過すれば 東風の到らん。 花信一花便り

依然として不況の風は吹いてをります。微恙というより末期の症状。しかしいつかは東風が吹きます。

2004-01

謹賀平成十六甲申歳新春

• 2004-01-01 (木)

• 西脇時報

偶 成

混沌世情将道窮、 混沌たる世情、将に道窮らんとす、 将道窮一為す術が無い

浮生名実暗塵中。 浮生、名実 暗塵の中。 暗塵中一暗闇の中

啓心唯有寒花発、 啓心、唯 寒花の発く有り、 啓心一心が開放される

潔白赤誠分白紅。 潔白、赤誠、白紅を分つ。 潔白赤誠一清く正しく

新年おめでとつございます。世の中は益々混沌として、心から新年を祝う気も萎えてくるが、庭の山茶花は年々歳々違ふ事なく、心を和ませてくれます。

天明義孝 夏梅太郎衛門 顕彰に寄す」 天明一約二百年前

仙峰靈水発芳梅、 仙峰の靈水 芳梅を発き、 仙峰一干が峰 芳梅一夏梅氏

苦雪寒村春日回。 苦雪の寒村 春日回る。 苦雪寒村一徴税厳しい比喩

一夜狂風散葩片、 一夜の狂風 葩片を散じ、…… 越訴し処刑なつた表現

郷人等仰白雲開。 郷人等しく仰ぐ 白雲の開くを。… 免租になり憂い消える

昨年顕彰の行事が行われたが、その昔、加美町熊野部に地方を揺るがす大事件があつた。二本松・丹羽藩の有名な石柱、孟詵語録の 爾封爾録、民膏民脂 下民易虐 上天難欺これこそ現代政治に求められる焦眉の急。

予科練同期会偶得 予科練 旧海軍飛行予科練習生 甲種と乙種あり

憂国少年忠且純、 憂国の少年 忠且つ純なり、 制服は七つ釦に桜と錨マーク

桜錨七釦挺身。 桜錨の七釦、心身を挺す。 散華一戦死 鎮護一国を守る

散華鎮護紅顔夢、 散華し鎮護するは 紅顔の夢、 談叢一話が尽きない事

懐旧談叢浦戸浜。 懐旧談叢す、浦戸の浜。 紅顔一少年 浦戸浜一高知市

九月十一日偶得 偶得一偶成一偶然に出来た

双楼崩落滅巨形、 双楼崩落し 巨形滅え、 双楼一ニューヨークビル

為報膺懲他国庭。 為に報ず膺懲、他国の庭。 膺懲一外敵を征伐する

哀楽有情同隔海、 哀楽有情は 海を隔てて同じ、 哀楽有情一喜怒哀楽の心

沈思長息仰空青。 沈思長息して 空の青きを仰ぐ。 沈思長息一深く思い憂える

年は十六、国の為、只国のための一心で尽忠報国の青春、今の同年代に理解される事は不可能……これも我々の責任か。しかし、お隣りの若者に尋ねたら、ほとんどが国の為に死ぬと言った。三年前、上海大学々生男女との交流の中で……。

彼等が穴居していた頃、我々は高度な文明の中に居たんだ」と言ったアジズ元外相の言葉が今も忘れられない。……  
それにしても日本の立場は深刻。

## 西安即事

洗却巴秦旬日塵、 洗却す、巴秦 旬日の塵、 即事Ⅱその場の事を題材にする

西安高閣拳杯巡。 西安の高閣、拳杯巡る。 巴―四川省 秦―陝西・甘肅省

美姫琴曲客情慰、 美姫の琴曲 客情を慰む、 洗却―洗い流す

為請民歌北国春。 為に請う民歌 北国の春。

年来の思い。杜甫の生涯流転の軌跡を辿る会を同行数名と中国政府、学会の助力で昨年三月、サーズ流行の最中に完了。この詩は「昨年最難関の秦嶺山脈を越え 成都から帰って西安でのひととき。北国の春は二十年も前から中国でソング曲。

皆様、今年こそは良い年でありますように。

## 2005-01

### 謹賀平成十七乙酉歳新春

• 2005-01-01 (土)

• 西脇時報

## 新春好日

遊鳥無声来往頻、 遊鳥 無声 来往頻り

残花処々緑苔新。 残花 処々 緑苔新たなり 残花 散り残りの花

水明山紫画中趣、 水明 山紫 画中の趣き 画中趣 画に描いた様な

常住自成方外人。 常住 自ら成る 方外の人 方外 浮き世の外

おめでとついでございます。和かな日和に庭に向かって佇むと、動くものは小鳥のみ、しかし、自然は静寂の中にも確かに息吹いている。無事これ貴人・促身成仏。

## 台風二十三号禍

伏龍登似鬪龍灘、

伏龍 登るに似たり 鬪龍の灘、

報道の映像に何回もでた

豪雨暴風洪水瀾。

豪雨 暴風 洪水の瀾。

鬪龍灘の情景

庭事清流水魔住、

庭事ぞ 清流 水魔の住むとは、

伏龍 地中に潜む竜

晚秋空仰意中寒

晚秋 空しく仰ぎ 意中寒し。

底事 何事

列島異変は酷暑に始まり、豪雨と台風の襲来は記録的、ついに北播・但馬に大きな爪痕を残した。特に西脇の水量は、何回か経験した私の思いより一米以上深かった、衷心よりお見舞い申し上げます。天災は予測の範囲では決して来ない。

## 交流会即事

一刻清吟興雅遊、

一刻の清吟

雅遊に興じ、

桂宮 桂の宮殿 月のこと

満堂嘉客感銘留。

満堂の嘉客

感銘を留む。

引領 首を長くして待つ

君知此地桂宮近、

君知るや此の地 桂宮に近きを

光臨 高臨 来臨

引領光臨村里秋。

引領す 光臨

村里秋に。

昨年秋、地元老人会と姫路の賀堂流朗吟会との交歓会がもたれ盛会であった。ともすれば閉鎖的になる高齢化社会、多方面の交流こそ活力の源泉、見聞こそが老化の防止、それから生まれる知識が次の行動の指針となる。

## 憂世

扶桑閑却漢文功、

扶桑は閑却す 漢文の功

扶桑 日本国

欧美百年心酔中。

欧美 百年 心酔の中

閑却 なおざりにする

蔓草山河松栢滅、

山河蔓草して 松栢滅す

欧美 欧米と同じ

衆人期待自然風。

衆人は期待す 自然の風

松柏 志の高いこと

明治以来、脱亜入欧が叫ばれ、特に戦後はアメリカ文化に一边倒、故きをたずねて新しきを知る事を忘れ、現在に至って漸く多くの物が失われたことを気づくに至った。東洋では、中庸(バランス)の教えは春秋時代から大事な教典。

火山山 (天山南路 吐魯番(トルハン)近郊にある山、西遊記で有名)

赤心如染壁紅留、 赤心染めるが如く、壁 紅を留め、赤心まごころ

火焰山頭往事悠、 火焰 山頭 往事悠かなり。 往事 昔のこと

經典伝来辛苦路、 經典 伝来 辛苦の路、 經典伝来 玄奘三蔵故事

仏縁深謝仰清秋、 仏縁に深謝して 清秋を仰ぐ。

中国の目覚ましい発展は周知のこと。しかし発展に伴うエネルギー不足は急速に進み、火焰山の観光駐車場の直前で油井が掘られていたのには驚いた。この問題は、すでに石油高騰に表れているが、遅かれ早かれ内外に多くの影響をもたらすであろう。何はともあれ、心安らかな年でありますようお願い申し上げます。

2006-01

謹賀平成十八丙戌歳新春

• 2006-01-01 (日)

• 西脇時報

偶 得

飛雪寒空月半輪、 飛雪 寒空 月半輪、 梢帚 帚のような梢

故林梢帚拂風塵、 故林の梢帚 風塵を払う。 風塵 俗世間

生々流転無間断、 生々流転 間断無し、 生々流転 万物の移り変わり

送旧迎新会麗春、 旧を送り新を迎えて 麗春に会はん。

新年 おめでとございます。今年の冬はは例年になく雪の幕開けとなりました。あらたまの年の初めに豊の年 験すとならし雪のふれるは」と、昔なれば瑞兆。

韓 流

人心如水咨流行、 人心水の如く 流行を咨にし、 唐突 出し抜けに

唐突隣邦民状更、 唐突に 隣邦 民状更まる 隣邦 隣の国

東亜親交多苦難、 東亜の親交 苦難多し、 東亜 東アジア

日韓唇齒可存情、 日韓唇齒 情存す可し。 唇齒 唇と齒 密接な関係

流行ぐらい思いがけないものではありません。一本のドラマが引き金でヨン様・ジュンワ  
姫と昔の姫様が大挙して韓国詣で、冷えきった政治の隙間は民間外交で。  
隣の国は有史以来の関係、向こう三軒両隣、睨み合うより笑顔が宜しい。

## 嵐 峡

山溪曲折樹陰幽、 山溪 曲折 樹陰幽に、 嵐峡 嵐山溪谷

千変巖頭万化流。 千変の巖頭 万化して流る。 千変巖頭 色々な形の岩

鴨緑渦旋白龍躍、 鴨緑 渦を旋いて 白龍躍り、 鴨緑 鴨の首の緑色

棹歌乍過一輕舟。 棹歌乍ち一輕舟の過る。 棹歌 船頭歌

昨年初夏、久し振りに嵐山に遊び、思い付くままに作ったこの詩を、偶々福井県で開催された第二十回国民文化祭・漢詩大会に投稿し入選、表彰式典に参加しついでに永平寺に詣でる。

## 永平寺

偃月橋 唐門前にある

偃月橋頭水好音、 偃月橋頭 水 好音、 三黙 僧堂・東司・浴室

溪杉掩映綠苔深。 溪杉 映えを掩いて 綠苔深し。 を三黙道場と言ひ私語禁

山門欲到破三黙、 山門到らんと欲せば 三黙を破り、 魚板 魚の形をした木柵

魚板一声蘇放心。 魚板一声 放心蘇える。 放心 本心を失うこと

加西市出身の宮崎奕保老師が管長という事で、他宗ながら近親感を覚える。

開祖道元禪師の普勸坐禅儀を指針として、只管打坐道場で有名なこの寺は、数ある禅宗の内でも特異な存在、乱れた現代に強い警告と実践指導を期待すること切。

## 時 流

無視民心世状移、 民心を無視して 世状移り、 何為 何をするのか

何為旧郡遂分離。 何為 旧郡 遂に分離す。 旧郡 西脇市政以前の郡

時流苦慮先人軌、 時流に苦慮せし 先人の軌、 先人軌 昔の人の事蹟

互恵共存知是誰。 互恵・共存 知るは是れ誰ぞ。

行政改革の錦の御旗を掲げ、タイム・リミットとアメとムチで督促する強引な手口、地理的制約と経済要因の中で久しく培ってきた歴史認識と、将来に対応す長期のビジョンの欠落した中で、全国の地方自治体は迷走した。現状は容認することも、更に理想に合う構想を住民自体が意識して暖めなければならぬと思う。  
申酉荒れて戌温い」と古諺にあります。今年こそはよい年でありますように。

2007-01

謹賀平成十九丁亥歳新春

• 2007-01-01 (月)

• 西脇時報

回 帰

一声高喉路三千、 一声 高く喉いて 路 三千、 回帰 めぐり帰る

鶴翼整然玄海前。 鶴翼 整然として 玄海に前む・ 玄海 玄界灘又は北の海

秋到春帰誰是識、 秋に到り 春に帰る 誰か是れ識る、

指針南北直長天。 南北を指針して 長天に直たる。 直 当と同じ意

鳥は独りで正しい行路を知る、人は何故乱れた行為・行動が自制できないのだろう。現代日本で 一つには漢字文化の等閑が大きく、今日を齎したと言っても過言でないとありますが、もう一つはアメリカ型・金銭至上主義、加えて政治倫理の欠如。  
年頭に先ず、本来の日本の面目への一日も早い回帰を祈りたいと思います。

虚 業

虚業 実業の反対

実業詐称虚蔓延、 実業を 詐称して 虚しく蔓延す、 詐称 偽って云う

妖魔傀儡衍塵縁。 妖魔の傀儡 塵縁に行る。 傀儡 操り人形

突如白日暴骸醜、 突如 白日 骸醜を暴き、 塵縁 世の中の係り合い

狂舞民衆徒惨然。 狂舞の民衆 徒だ惨然。 骸醜 みにくいむくろ

去年のビッグニュースは、内にはホリエモンの失脚、实体经济の何倍と言ふマネーが独り歩きをする事こそが異状。外ではイラク攻撃の根拠捏造の露呈。泣きを見るのは、内外を問わず何時も民衆。政治の貧困も大きな原因。

安部仲麻呂記念碑

白雲愁色詩 李白の哀悼の詩



仰見白雲愁色詩、

仰ぎ見れば 白雲愁色の詩、

春日望郷詞 天の原ふりさけ見

回頭春日望郷詞。

頭を回らせば 春日 望郷の詞。

れば春日なるの歌

一衣帯水同蒼昊、

一衣帯水 蒼昊を同じうし、

蒼昊 青空と同じ

名月清風肝胆披。

名月 清風 肝胆を披らく。

肝胆披 親しく交わる

西安に旅し、碑林博物館に趙館長と、昭和天皇の通訳をした、賈梅さんと久ぶりに会い、興慶公園の安部仲麻呂記念碑を訪れ、改めて相互理解に国境が無いことを思った。

## 万世 一系

竹園聖統祚無窮、

竹園の 聖統 祚わい無窮、

竹園 竹の園生 皇室のこと

一系連綿万世崇。

一系連綿として 万世に崇し。

聖統 皇室の世継ぎ

天佑此君齋玉筍、

天佑 此君に 玉筍を齋し、

玉筍 この場合玉の様なお子

八洲斉仰帝京空。

八洲 斉しく仰ぐ 帝京の空。

天佑 天のたすけ

去年唯一の明るいニュースは秋篠宮家の男子ご生誕、承継論議もピタリと止まった

## 風 騷

### 風騷 風流・詩文を作る事

藻雅関心老若無、

藻雅の 関心に 老若無く、

藻雅 詩文のこと

騷人況不問賢愚。

騷人 況んや 賢愚を問わず。

騷人 詩歌を嗜む風流人

平生花鳥與風月、

平生 花鳥 風月と、

賢愚 賢い人・愚かな人

一首清吟正氣蘇。

一首の清吟 正氣蘇える。

正氣 正常な心の働き

ふとした事から 吟道賀堂流の本部に招かれ 作詩講座を担当させてもらった。老いて学ぶことは貴重なこと、漢字は異国の物ではない、中国より正しく伝えられている一面もあり、現代中国の学術・経済用語の多くは日本発のものが多いと云われている

幼時に学んで道を知り、老いては身の処し方を思うのは 矢張り漢字文化が第一、歌の道こそ、ものの哀れを知る唯一の法。今年は本当に良い年になりますように。

2008-01-01 (火)

西脇時報

## 和春

和風三五白芳梅、 和風に三五白芳梅、 風にちらほら白梅香り

映日南天紅玉瑰、 日に映ず南天の紅玉瑰、 赤い南天日に眩し

只見閑庭静中動、 只だ見る閑庭静中の動、 庭に動くは只一つ

山禽飛去又飛来、 山禽飛去り又飛来る、 山鳥行ったり又来たり

瑰・美しい珠

新年おめでとつございます。異常気象と云っても、自然はかろうじてまだ偽ることなく花も咲き鳥も歌う。先日報道された、衛星カグヤからの地球の出は美しかったですね。

## 迎春花（黄梅）

楚々黄梅密発妍、 楚々として黄梅密に妍を発く、 黄梅密かに美しく

寒庭石上告春先、 寒庭の石上告春を先んず、 庭で唯一春を告ぐ

世情只管花兄賞、 世情只管花兄を賞するも、 世間只管梅ばかり

宛忸薄香還可憐、 宛ら薄香を忸ずは還た可憐、 香り無くても又可憐

花と言えば花、紅葉と言えば紅葉、皆一斉に動くようになったのは何時頃からなのか、静かに独居を守れば変人ときれる。多分にマスコミの所為だろうが、お互いの違いを認め合う事こそ社会の基本、すべては是より始まる。然し、限界集落などで独居を余儀なくされている老人を見ると、余りの社会格差に胸が痛むより怒りが先に込み上げる。

## 惜別

君逢六十二年前、 君に逢う六十二年前、 岸花気高い花

私敬愛郷初志全、 私に敬す愛郷の初志全きを、 請看御覧なさい

可恨岸花一朝散、

恨む可し岸花 一朝に散るも 春草 教えを受けた人々

請看春草自薰然。

請う看よ 春草 自ら薫然 薫然 徳により感化すること

畏友・田中昭三郎君が昨年逝った。教師となつて画業に専念、先師より示現会を継承し、愛郷の志を具現し多くの後輩に感化を残した。温厚だったが彼も予科練の生き残り。

## 憂世

狂風吹断岸花枯、

狂風吹断して 岸花 枯れ 風吹き 気高い 花は枯れ

松柏凋傷時雨無。

松柏 凋傷して 時雨も無し 松柏傷んで 雨も無し

何若東瀛一孤島、

何若ぞ 東瀛の 一孤島 どうする 東海の 離れ島

斜陽空照與桑榆。

斜陽 空しく 桑榆を照らす 西日は空しく 照るばかり

桑榆：くわとにれの木、日の入る処・晩年

今や地球は大患い、マネーゲーム・環境破壊・戦争・テロ、国は行政改革・教育改革・格差是正、？と朝令暮改。不況と負担増の狭間で庶民は悲鳴、かつて言われた一億総中流意識は敢え無く消し飛んで、今更、バブルの付けの大きさに驚くが、中国の諺に苛政は虎よりも猛なりとあるが、本当に驚くのはもっと先の事。今こそわが国古来の、自然(神)を敬い・分を知り・勿体無い気配りが問われる正念場、それ以外に良薬無し。

## 好日

早春和暖坐窓辺、

早春 和暖 窓辺に坐し 春の窓辺は くらうらと

膝上老猫同情眠。

膝上の老猫 情眠を同じうす 猫も居眠る 膝の上

也好荘周夢遊做、

也好し荘周 夢遊に倣い 夢で 荘子の 蝶になり

双飛翎々又翎々。

双飛せん 翎々 又 翎々と 一緒に飛ぼうよ ひらひらと

窓辺の日差しは心地よい、猫はチャッカリ膝の上。世の中如何に動こうが、分を守れば不足なし、年寄りの冷や水は御法度。皆様、どうぞ好いお年を。 合掌

- 2009-01-01 (木)
- 西脇時報

## 歳旦

新年己丑首春迎。

新年己丑の首春を迎え、

己丑の春を迎えたが、

何事寇偷迷路横。

何事ぞ 寇偷 迷路に横わるは。

大盗人が 居直おつた。

世紀危機未曾有。

世紀の危機 未だ曾つて有らず、

百年一度の 危機なるも、

扶桑衆志必成城。

扶桑の衆志 必ず 城を成す。

日本 必ず 大を成す。

寇偷 外敵の盗賊

厳しい年始と成りました。然し昭和二十一年は戦後復興第一年。そして平成二十一年は新生日本の第一年。昨年の「変」を受けて「西」を見直す最大の機会と思えば又別。

## 慨世

世情混沌歳星移。

世情混沌として 歳星移り、

世の中乱れて とし月移り、

内外難題累卵危。

内外の難題 累卵 危うし。

卵積むよに 問題の山。

社鼠横行蔵蕩尽。

社鼠 横行して 蔵 蕩尽し、

鼠 気ままに 蔵喰い尽し、

無為無策見機遅。

無為 無策 機を見る事遅し。

為す無く術無くやる気無し。

社鼠 神殿の鼠（人の手出しが出来ない役人）

国よりも 党を重んじ 党よりも 身を重んずる 人のむれ哉」と憲政の神様と言われた尾崎行雄をして嘆かした集りなので当節驚くに値しないが、それにしても選挙を前にした議員諸子の次元の低さと、就中、社保庁の不正は言語同断。

## 温故

福王山頭憲賀名。

福王山頭 憲賀の名、

里のお寺の 憲賀さん、

故郷探訪古歌驚。

故郷の探訪 古歌に驚く。

あなたの歌に 驚いた。

花鳥風月吟自在。

花鳥風月 自在に吟じ、

花鳥風月 折り込んで、

一柱碑銘蘊蓄明。

一柱の碑銘 蘊蓄明かなり。

自在に詠んだ その知恵に。

蘊蓄 学問・技芸の深い知識

散りて行 花に方便なかりけり 兜 霧雲晴れて 有明の月」 中区・奥中の観音寺の除夜灯にこの句が刻まれている。  
(畷り・カモ 助動詞の過去形「けり」に使用され、花鳥風月を表現) 昨年は古文書に接する機会が多く 中でも巴流と云われた奥村家の謙斎先生が長崎に遊学し、シーボルト(氏勃徳)に弟子入りした碑文やそれを記した格調の高い詩文は出色だった。かつての中町は文化の香り高い地方であった一つの証拠。

守 愚

凡凡過客又平平。

凡凡たる過客 又平平、

気ばかり焦って 月日は過ぎる、

瘠土孤吟方寸耕。

瘠土に孤吟して 方寸を耕す。

独り呻いて 瘠せ地を反す。

閑却今人温故道。

今人 閑却す 温故の道、

大事な道を 皆放り出し、

扶桑根幹以何成。

扶桑の根幹 何を以てか成る。

肝心 要を 見失う

過客 旅人 月日 瘠土 この場合 漢詩文を云う

こんなにも若者が希望を失いやる氣を無くしたのは誰なのだ。昭和シングルは恐慌の真っ只中に生まれた、然しもっと希望があった。 神国と教えられたのは見事に裏切られたが、絶望の中から学んだものは知的にも風土的にも素晴らしい国の発見だった。

孤 嘯

老来猶未夢魂醒。

老来 猶お未だ 夢魂さ醒めず、

歳はとれども 夢猶お覚めず、

仰見玄穹意自寧。

仰ぎ玄穹を見れば 意自ら寧し。

空を仰げば 心も和む。

独坐不孤吟骨健。

独坐して孤ならず 吟骨健なり、

独り坐しても 一人じゃないぞ

方観对我在光星。

方に我に対して 光る星あるを観る。 我に向かつて 光る星在り。

孤嘯 独りつそぶく

光る星の発見。生きるに値する人生にして、艶を添えてくれるものその物。是こそ神・仏。霜を凌ぎ雪に耐えうる、安らかな生甲斐の絶対条件、請看脚下。 合掌

2010-01-01 (金)

西脇時報

播磨漢詩人社 石斛庵 虚舟 竹内正佳

## 新生

新年迎得幸生臨、 新年迎え得て 幸生に臨む、 新年迎えて 命を貰うて、

八十人生恩義深。 八十の人生 恩義深し。 生きる数だけ 恩がある。

猶有老軀風骨健、 猶お有り老軀 風骨健なるを、 年は取つても まだ気は確か、

山居也好吐清吟。 山居也た好し 清吟を吐かん。 郷の清かを 詩にせん。

明けましておめでとございます。 慌しい世相の中で十分の一世紀を迎えました。  
 人生六十一が還暦で第二の人生ならば、平均寿命を越える八十は第三の人生。  
 生かされた命を 幸生」と云うが、この認識が宗教本来の原点、命は総てに繋がる。

## 南天竹

照葉真紅映夕陽、 照葉 真紅 夕陽映え、 赤い葉っぱが 夕陽に映えて、

子立凌霜赤心光。 子立 凌霜 赤心光る。 寒さに負けずに 心が光る。

寒庭坐愛南天竹、 寒庭 坐に愛す 南天竹、 何も無いけど 南天あれば、

飽見神工無限場。 飽き見る神工 無限の場。 今日命は 見飽きない。

## 子立ゝ孤立

窓先の庭の南天が赤く色づいて陽に輝き、息を呑むような美しさ。  
 自然は何時も思はぬ処に巧まぬ技を見せてくれる。

## ネット電網社会

依存電網井中蛙、 ネット電網 依存は 井の中の蛙、 ネット人種は 井の中の蛙、

株守壺天風信除。 壺天に株守して 風信を除る。 一極集中すべてを 鵜呑み。

不解春秋寒與暖、

解せず春秋 寒暖と、

四季の移りや 温もり知らず、

浮塵吞却幻蒼霞。

浮塵を吞却して 蒼霞を幻ず。

人工飼育の ブロイラー。

株守ゝ同じ事をする 壺天ゝ別世間

今の社会をネット社会と云うそうだが、地球を網羅した情報が一方的な洪水のようにやってきて、真偽も分らないまま量に圧倒されてしまう、果たしてその結果は？

杏 林

杏林ゝ医者的美称

今日杏林追日更、

今日の杏林 日を追って更まり、

脈を診るのも 昔と違い、

電磁神手鬼工生。

電磁の神手 鬼工を生ず。

神と人との 意が通う。

心冠脈裏人為用、

心冠脈裏に 人為を用い、

心の臓にも 人手を用い、

九死迂回延壽迎。

九死を迂回して 延壽を迎う。

翳る夕陽が 亦光る。

鬼工ゝ神技 心冠脈裏ゝ冠動脈中

偶然の不整脈の発見から、冠動脈狭窄が明確になり、カテーテルでの補修を体験した。永く内科の診療は受けた経験が無い、見るもの聴くもの驚きばかり、やがては自分の細胞培養で治療が出来るようになるう、矢持健・井関治・両先生に深甚の感謝。

古 梅

寒庭一木老芳梅、

寒庭 一木 老芳梅、

庭に一本 古びた梅は、

耐雪凌霜数蕾開。

耐雪 凌霜 数蕾開く。

凍ても負けずに 僅かに開く、

不識浮生名利事、

識らず 浮生 名利の事、

浮世の事など 何知るものか、

年々歳々送香来。

年々 歳々 香送り来る。

毎歳寄こすは 好い香り。

「隅を照らす」と云う言葉があるが、自然を見れば総てはその理に適っている、只

その理に逆らうのが唯一人間、鳩山首相は温室効果ガスを二十五%削減を世界に提唱、反応は区々だが、産業界デフレ脱却の起爆剤にもなり得る要因も含み、特に農山村の再生にも多くの可能性があると思う。どうか希望の見える年でありますように。 合掌 敬白

- 2011-01-14 (金)

- 西脇時報

謹賀 平成二十三年辛卯歳 新春

播磨漢詩人社 石斛庵

## 暁霜 春色

老杉聳立白霜清、 老杉聳立して 白霜清らかに、 霜を戴き 大杉聳え

翠碧西天残月明。 翠碧の西天 残月明かなり。 翠の空に 月残る

曙色染山甦正気、 曙色山を染めて 正気甦り、 空曙に 心は晴れて

含紅樹樹欲枝萌。 樹々紅を含んで 枝萌えんと欲す。 木々の梢に 芽を孕む

生命の営みは生々流転して不断に行はれ、人は日・旬・月・四季の移転の中に喜怒哀楽を綴って行く。その地球一家万物の中に生かされている事の自覚こそが二十一世紀の最も直近の重要な課題。 明けましておめでと〜ございます。

## 来住邸

童子山頭好鳥声、 童子 山頭 好鳥の声、 童子山から 小鳥の音が

巖然薨色翠嵐明。 巖然たる薨色 翠嵐明かなり。 翠清かに 薨に映える

君知此邸粹中粹、 君知るや此の邸 粹中の粹なるを、 あんた知るかえ 昔の粹を

梅老遺芳転有情。 梅老の遺芳 転た情有り。 梅翁遺した この粹を

昨年来住邸で個展を催しました、京都・大阪・西播各地から詩・書・吟・茶の友をはじめ、多数のご来会を賜り盛会裏に終えることが出来ました。この荒んだ世の中に多くの出会いと、人々の心の中に光るものが見られ、一会のうちに多くの知己を得る事が出来たことが最大の喜びであり、更に第三の人生に対する指針を得たことが最大の収穫であり、生涯忘れる事の出来ない思い出にもなりました。

## 吟 興

春夏秋冬吟道行、 春夏 秋冬 吟道を行けば、 四季の移りを吟じて行けば

風騷無尽亦縦横。 風騷 無尽 亦た縦横。 風雅は無尽に 満ち満ちて



随処随意扶桑習、 随処随意は 扶桑(日本)の習い、 時と所は 心の儘に  
毎念浮雲落日情。 毎に念う 浮雲 落日の情。 常に思うは 有為の情  
浮雲落日情一有為転変 常の無い様

永年、吟や歌をされている方々の健康の秘訣は、声帯と肺をフルに使う動作が全身の運動になり、しかも、そのときの感情移入が適度な精神の緊張感をとめない、詩文を理解するための努力が教養につながると言う、一石三鳥にもなる効用の結果だろう。

## 桃園通関即事

護照扱関呈示時、 護照 扱関 呈示の時、 旅券差出し 緊張のとき  
美嬪莞爾寿辰辞。 美嬪 莞爾 寿辰の辞。 美女がニツコリ オメデトウ  
今天正是我生日、 今天正是是れ 我が生日、 今日は正しく 誕生日  
一服清涼言外慈。 一服 清涼 言外の慈。 清かな風が 吹き過ぎた。

桃園空港で通関のとき 您好(ニイハオ)「言いながら提示すると、ややあつて顔を見ながら タケウチサン、オメデトウ」と云ったので、 仲ム(シエンモ)ル(ア)「何ですか」(と)いいますと 今天您生日(チンテンニンシャンリ)「今日はあなたの誕生日」(と)、あそつだ、今日は誕生日だった、慌てて 謝々(シイシエイ)您(ニン)「とニツコリ言って通関した。うっかりすると家族からも忘れられかねない今日この頃、見知らぬ他国の係官の娘さんから、おめでつと言われた貴重なヒトコマでした。

## 賀 江口大象先生日展会員賞受賞

葉隠逸材持節流、大江無限亦悠々。 不言桃李成蹊裡、奇器時宜燦八州。  
葉隠(はかくれ)れの逸材 節を持して流れ、 大江 無限 亦た悠々。  
桃李言は不れども 蹊成るの裡、 奇器時宜しく 八州(日本)に燦たり。  
葉隠(武士道)・佐賀県のこと・ 大江・長江を先生の人柄に例えて  
奇器・素晴らしいつわ(人材)と(小坂奇石先生の高弟であつた事の意)

昨年、大阪の書家・江口大象師が日展会員賞を受賞された、しかもその近作・大作が近隣の数ヶ寺に寄贈して下さる事になり、すでに納まっている所もあります、時期が来れば盛大に披露されますのでご期待下さい。今年はいよいよお歳でありますように。

- 2011-03-17 (木)

- [お知らせ](#)



奥中 観音寺にて

本日、多可町中区奥中観音寺にて故・竹内正佳氏の葬儀がしめやかに行なわれました。小雪が舞う寒い中での式でしたが沢山の方々が氏との最後のお別れを惜しまれました。

体調不良で6月7日に検査入院されたそうですが、末期の肺癌だったそうです。多趣味で色々なことに造詣が深い方でした。人生を存分に楽しみ、笑いながらあの世に旅立たれたように私には思えます。

生前は私も色々とお世話になりました。謹んで氏のご冥福をお祈りいたします。本サイトのお問い合わせより頂いたメッセージは私が責任を持って親族の方にお届け致します。

web master amanjako

## お知らせ

- 2011-03-15 (火)

- [お知らせ](#)

当ホームページの作者、竹内正佳氏が未明にお亡くなりになりました。詳しいことはまだわかりませんが、7日にお通夜、17日に葬儀が行なわれるようです。謹んで故人の冥福をお祈り申し上げます。

お通夜と葬儀の時間が分かりましたのでお知らせします。

- 通夜式 場所:多可町中区奥中 観音寺 時間:16日 PM 6:00より
- 葬儀 場所:多可町中区奥中 観音寺 時間:17日 PM 1:00より

# 謹賀平成十六甲申歳新春

2004-01-01 (木) 16:11

西脇時報

## 偶 成

混沌世情將道窮、

混沌たる世情、將に道窮らんとす、

將道窮―為す術が無い

浮生名実暗塵中。

浮生、名実 暗塵の中。

暗塵中―暗闇の中

啓心唯有寒花発、

啓心、唯 寒花の発く有り、

啓心―心が開放される

潔白赤誠分白紅。

潔白、赤誠、白紅を分つ。

潔白赤誠―清く正しく

新年おめでとつございます。世の中は益々混沌として、心から新年を祝う気も萎えてくるが、庭の山茶花は年々歳々違ふ事なく、心を和ませてくれます。

天明義拳 夏梅太郎衛門 顕彰に寄す」

天明一約二百年前

仙峰靈水発芳梅、

仙峰の靈水 芳梅を発き、

仙峰―千が峰 芳梅―夏梅氏

苦雪寒村春日回。

苦雪の寒村 春日回る。

苦雪寒村―徴税厳しい比喩

一夜狂風散葩片、

一夜の狂風 葩片を散じ、……

越訴し処刑なつた表現

郷人等仰白雲開。

郷人等しく仰ぐ 白雲の開くを。…

免租になり憂い消える

昨年顕彰の行事が行われたが、その昔、加美町熊野部に地方を揺るがす大事件があった。  
二本松・丹羽藩の有名な石柱、孟詵語録の 爾封爾録、民膏民脂 下民易虐 上天難欺「これこそ現代政治に求められる  
焦眉の急。」

予科練同期会偶得

予科練 旧海軍飛行予科練習生 甲種と乙種あり

憂国少年忠且純、

憂国の少年 忠且つ純なり、

制服は七つ釦に桜と錨マーク

桜錨七釦挺心身。

桜錨の七釦、心身を挺す。

散華―戦死 鎮護―国を守る

散華鎮護紅顔夢、

散華し鎮護するは 紅顔の夢、

談叢―話が尽きない事

懐旧談叢浦戸浜。

懐旧談叢す、浦戸の浜。

紅顔―少年 浦戸浜―高知市

九月十一日偶得

偶得一偶成一偶然に出来た

双楼崩落滅巨形、

双楼二ユーヨークビル

為報膺懲他国庭。

膺懲一外敵を征伐する

哀楽有情同隔海、

哀楽有情一喜怒哀楽の心

沈思長息仰空青。

沈思長息して空の青きを仰ぐ。

沈思長息一深く思い憂える

年は十六、国の為、只国のための一心で尽忠報国の青春、今の同年代に理解される事は不可能…これも我々の責任か。しかし、お隣りの若者に尋ねたら、ほとんどが国の為に死ぬと言った。三年前、上海大学々生男女との交流の中で…。

彼等が穴居していた頃、我々は高度な文明の中に居たんだ」と言ったアジズ元外相の言葉が今も忘れられない。……それにしても日本の立場は深刻。

## 西安即事

洗却巴秦旬日塵、

即事||その場の事を題材にする

西安高閣拳杯巡。

巴一四川省 秦一陝西・甘肅省

美姬琴曲客情慰、

洗却一洗い流す

為請民歌北国春。

為に請う民歌 北国の春。

年来の思い。杜甫の生涯流転の軌跡を辿る会を同行数名と中国政府、学会の助力で昨年三月、サズ流行の最中に完了。この詩は「昨年最難関の秦嶺山脈を越え 成都から帰って西安でのひととき。北国の春は二十年も前から中国でソング曲。

皆様、今年こそは良い年でありますように。

- Newer: [謹賀平成十七〇西歳新春](#)
- Older: [謹賀平成十五癸未歳旦迎](#)

トラックバック:0

このエントリーのトラックバック URL

<http://kyoshuu.amanjako.jp/nishiwaki/46/trackback/>

Listed below are links to weblogs that reference

[謹賀平成十六甲申歳新春 from 虚舟鶏肋](#)

## 謹賀平成十七乙酉歳新春

2005-01-01 (土) 16:34

西脇時報

### 新春好日

遊鳥無声来往頻、 遊鳥 無声 来往頻り

残花処々緑苔新。 残花 処々 緑苔新たなり 残花 散り残りの花

水明山紫画中趣、 水明 山紫 画中の趣き 画中趣 画に描いた様な

常住自成方外人。 常住 自ら成る 方外の人 方外 浮き世の外

おめでとうございます。和かな日和に庭に向かって佇むと、動くものは小鳥のみ、しかし、自然は静寂の中にも確かに息吹いている。無事これ貴人・促身成仏。

### 台風二十三号禍

伏龍登似鬪龍灘、 伏龍 登るに似たり 鬪龍の灘、 報道の映像に何回もでた

豪雨暴風洪水瀾。 豪雨 暴風 洪水の瀾。 鬪龍灘の情景

庭事清流水魔住、 庭事ぞ 清流 水魔の住むとは、 伏龍 地中に潜む竜

晚秋空仰意中寒 晚秋 空しく仰ぎ 意中寒し。 底事 何事

列島異変は酷暑に始まり、豪雨と台風の襲来は記録的、ついに北播・但馬に大きな爪痕を残した。特に西脇の水量は、何回か経験した私の思いより一米以上深かった、衷心よりお見舞い申し上げます。天災は予測の範囲では決して来ない。

### 交流会即事

一刻清吟興雅遊、 一刻の清吟 雅遊に興じ、 桂宮 桂の宮殿 月のこと

満堂嘉客感銘留。 満堂の嘉客 感銘を留む。 引領 首を長くして待つ

君知此地桂宮近、 君知るや此の地 桂宮に近きを 光臨 高臨 来臨

引領光臨村里秋。 引領す 光臨 村里秋に。

昨春秋、地元老人会と姫路の賀堂流朗吟会との交歓会がもたれ盛会であった。ともすれば閉鎖的になる高齢化社会、多方面の交流こそ活力の源泉、見聞こそが老化の防止、それから生まれる知識が次の行動の指針となる。

## 憂世

扶桑閑却漢文功、 扶桑は閑却す 漢文の功 扶桑 日本国

欧美百年心酔中。 欧美 百年 心酔の中 閑却 なおざりにする

蔓草山河松栢滅、 山河蔓草して 松栢滅す 欧美 欧米と同じ

衆人期待自然風。 衆人は期待す 自然の風 松栢 志の高いこと

明治以来、脱亜入欧が叫ばれ、特に戦後はアメリカ文化に一边倒、故きをたずねて新しきを知る事を忘れ、現在に至って漸く多くの物が失われたことを気づくに至った。東洋では、中庸(バランス)の教えは春秋時代から大事な教典。

## 火炎山 (天山南路 吐魯番(トルハン)近郊にある山、西遊記で有名)

赤心如染壁紅留、 赤心 染めるが如く 壁 紅を留め、 赤心 まごころ

火焰山頭往事悠。 火焰 山頭 往事悠かなり。 往事 昔のこと

經典伝来辛苦路、 經典 伝来 辛苦の路、 經典伝来 玄奘三蔵故事

仏縁深謝仰清秋。 仏縁に深謝して 清秋を仰ぐ。

中国の目覚ましい発展は周知のこと。しかし発展に伴うエネルギー不足は急速に進み、火焰山の観光駐車場の直前で油井が掘られていたのには驚いた。この問題は、すでに石油高騰に表れているが、遅かれ早かれ内外に多くの影響をもたらすであろう。何はともあれ、心安らかな年でありますようお願い申し上げます。

- Older: [謹賀平成十六甲申歳新春](#)

## トラックバック:0

このエントリーのトラックバック URL

<http://kyoshuu.amanjako.jp/nishiwaki/57/trackback/>

Listed below are links to weblogs that reference

[謹賀平成十七乙酉歳新春](#) from [虚舟鷄肋](#)

## 謹賀平成十八丙戌歳新春

• 2006-01-01 (日) 16:46

• [西脇時報](#)

### 偶 得

飛雪寒空月半輪、 飛雪 寒空 月半輪、 梢帚 箒のような梢

故林梢帚拂風塵。 故林の梢帚 風塵を払う。 風塵 俗世間

生々流転無間断、 生々流転 間断無し、 生々流転 万物の移り変わり

送旧迎新会麗春。 旧を送り新を迎えて 麗春に会はん。

新年 おめでとございます。今年の冬はは例年になく雪の幕開けとなりました。あられたまの年の初めに豊の年 験すとならし雪のふれるは」と、昔なれば瑞兆。

### 韓 流

人心如水咨流行、 人心水の如く 流行を咨にし、 唐突 出し拔けに

唐突隣邦民状更。 唐突に 隣邦 民状更まる 隣邦 隣の国

東亜親交多苦難、 東亜の親交 苦難多し、 東亜 東アジア

日韓唇齒可存情。 日韓唇齒 情存す可し。 唇齒 唇と齒 密接な関係

流行ぐらい思いがけないものではありません。一本のドラマが引き金でヨン様・ジユフ  
姫と昔の姫様が大挙して韓国詣で、冷えきった政治の隙間は民間外交で。  
隣の国は有史以来の関係、向こう三軒両隣、睨み合うより笑顔が宜しい。

## 嵐 峡

山溪曲折樹陰幽、 山溪 曲折 樹陰幽に、 嵐峡 嵐山溪谷

千変巖頭万化流。 千変の巖頭 万化して流る。 千変巖頭 色々な形の岩

鴨緑渦旋白龍躍、 鴨緑 渦を旋いて 白龍躍り、 鴨緑 鴨の首の緑色

棹歌乍過一輕舟。 棹歌乍ち一輕舟の過る。 棹歌 船頭歌

昨年初夏、久し振りに嵐山に遊び、思い付くままに作ったこの詩を、偶々福井県で開催された第二十回国民文化祭・漢詩大会に投稿し入選、表彰式典に参加しついでに永平寺に詣でる。

## 永平寺 偃月橋 唐門前にある

偃月橋頭水好音、 偃月橋頭 水 好音、 三黙 僧堂・東司・浴室

溪杉掩映綠苔深。 溪杉 映えを掩いて 綠苔深し。 を三黙道場と言ひ私語禁

山門欲到破三黙、 山門到らんと欲せば 三黙を破り、 魚板 魚の形をした木柵

魚板一声蘇放心。 魚板一声 放心蘇える。 放心 本心を失うこと

加西市出身の宮崎奕保老師が管長という事で、他宗ながら近親感を覚える。

開祖道元禪師の普勸坐禅儀を指針として、只管打坐道場で有名なこの寺は、数ある禅宗の内でも特異な存在、乱れた現代に強い警告と実践指導を期待すること切。

## 時 流

無視民心世状移、 民心を無視して 世状移り、 何為 何をするのか

何為旧郡遂分離。 何為 旧郡 遂に分離す。 旧郡 西脇市政以前の郡

時流苦慮先人軌、 時流に苦慮せし 先人の軌、 先人軌 昔の人の事蹟

互惠共存知是誰。 互惠・共存 知るは是れ誰ぞ。



行政改革の錦の御旗を掲げ、タイム・リミットとアメとムチで督促する強引な手口、地理的制約と経済要因の中で久しく培ってきた歴史認識と、将来に対応す長期のビジョンの欠落した中で、全国の地方自治体は迷走した。現状は容認するとも、更に理想に合う構想を住民自体が意識して暖めなければならぬと思う。申酉荒れて戌温い」と古諺にあります。今年こそはよい年でありませう。

- [Newer: 謹賀平成十九丁亥歳新春](#)
- [Older: 謹賀平成十七乙酉歳新春](#)

トラックバック:0

このエントリーのトラックバック URL

<http://kyoshuu.amanjako.jp/nishiwaki/67/trackback/>

Listed below are links to weblogs that reference

[謹賀平成十八丙戌歳新春](#) from [虚舟鶏肋](#)

## 謹賀平成十九丁亥歳新春

• 2007-01-01 (月) 16:48

• [西脇時報](#)

## 回 帰

一声高喉路三千、 一声 高く喉いて 路 三千、 回帰 めぐり帰る

鶴翼整然玄海前。 鶴翼 整然として 玄海に前む・ 玄海 玄界灘又は北の海

秋到春帰誰是識、 秋に到り 春に帰る 誰か是れ識る、

指針南北直長天。 南北を指針して 長天に直たる。 直 当と同じ意

鳥は独りで正しい行路を知る、人は何故乱れた行為・行動が自制できないのだろう。現代日本で 一つには漢字文化の等閑が大きく、今日を齎したと言っても過言でないとありますが、もう一つはアメリカ型・金銭至上主義、加えて政治倫理の欠如。年頭に先ず、本来の日本の面目への一日も早い回帰を祈りたいと思います。

## 虚 業

## 虚業 実業の反対

実業詐称虚蔓延、

実業を詐称して虚しく蔓延す、詐称偽って云う

妖魔傀儡衍塵縁、

妖魔の傀儡 塵縁に行る。

傀儡 操り人形

突如白日暴骸醜、

突如 白日 骸醜を暴き、

塵縁 世の中の係り合い

狂舞民衆徒惨然。

狂舞の民衆 徒だ惨然。

骸醜 みにくいむくろ

去年のビッグニュースは、内にはホリエモンの失脚、実体経済の何倍と言うマネーが独り歩きをする事こそが異状。外ではイラク攻撃の根拠捏造の露呈。泣きを見るのは、内外を問わず何時も民衆。政治の貧困も大きな原因。

### 安部仲麻呂記念碑

### 白雲愁色詩 李白の哀悼の詩

仰見白雲愁色詩、

仰ぎ見れば 白雲愁色の詩、

春日望郷詞 天の原ふりさけ見

回頭春日望郷詞。

頭を回らせば 春日 望郷の詞。

れば春日なるの歌

一衣帯水同蒼昊、

一衣帯水 蒼昊を同じうし、

蒼昊 青空と同じ

名月清風肝胆披。

名月 清風 肝胆を披らく。

肝胆披 親しく交わる

西安に旅し、碑林博物館に趙館長と、昭和天皇の通訳をした、賈梅さんと久ぶりに会い、興慶公園の安部仲麻呂記念碑を訪れ、改めて相互理解に国境が無いことを思った。

### 万世 一系

竹園聖統祚無窮、

竹園の 聖統 祚わい無窮、

竹園 竹の園生 皇室のこと

一系連綿万世崇。

一系連綿として 万世に崇し。 聖統 皇室の世継ぎ

天佑此君齋玉筍、

天佑 此君に 玉筍を齋し、

玉筍 この場合玉の様なお子

八洲斉仰帝京空。

八洲 斉しく仰ぐ 帝京の空。 天佑 天のたすけ

去年唯一の明るいニュースは、秋篠宮家の男子ご生誕、承継論議もピタリと止まった

### 風 騷

### 風騷 風流・詩文を作る事

藻雅関心老若無、

藻雅の 関心に 老若無く、

藻雅 詩文のこと

騷人況不問賢愚。

騷人 況んや 賢愚を問わず。

騷人 詩歌を嗜む風流人

平生花鳥與風月、

平生 花鳥 風月と、

賢愚 賢い人・愚かな人

一首清吟正氣蘇。

一首の清吟 正氣蘇える。

正氣 正常な心の働き

ふとした事から 吟道賀堂流の本部に招かれ 作詩講座を担当させてもらった。老いて学ぶことは貴重なこと、漢字は異国の物ではない、中国より正しく伝えられている一面もあり、現代中国の学術・経済用語の多くは日本発のものが多いと云われている

幼時に学んで道を知り、老いては身の処し方を思うのは 矢張り漢字文化が第一、歌の道こそ、ものの哀れを知る唯一の法。今年は本当に良い年になりますように。

• [Newer: 謹賀平成二十戊子歳新春](#)

• [Older: 謹賀平成十八丙戌歳新春](#)

トラックバック:0

このエントリーのトラックバック URL

<http://kyoshuu.amanjako.jp/nishiwaki/69/trackback/>

Listed below are links to weblogs that reference

[謹賀平成十九丁亥歳新春](#) from [虚舟鶏肋](#)

謹賀平成二十戊子歳新春

• 2008-01-01 (火) 17:02

• [西脇時報](#)

和 春

和風三五白芳梅、

和風に 三五 白芳梅

風にちらほら 白梅 香り

映日南天紅玉瑰。

日に映ず 南天の 紅玉瑰

赤い南天 日に 眩し

只見閑庭静中動、

只だ見る 閑庭 静中の動

庭に動くは 只一つ

山禽飛去又飛来。

山禽 飛去り 又 飛来る

山鳥 行ったり 又来たり

瑰・美しい珠

新年おめでとうございます。異常気象と云つても、自然はかろつじてまだ偽ることなく花も咲き鳥も歌う。先日報道された、衛星カグヤからの地球の出は美しかったですね。

## 迎春花（黄梅）

楚々黄梅密発妍、 楚々として黄梅 密に妍を発く 黄梅 密かに 美しく

寒庭石上告春先。 寒庭の石上 告春を 先んず 庭で 唯一 春を告ぐ

世情只管花兄賞、 世情 只管 花兄を賞するも 世間 只管 梅ばかり

宛忸薄香還可憐。 宛ら薄香を忸ずは 還た可憐 香り無くても 又可憐

花と言えば花、紅葉と言えば紅葉、皆一斉に動くようになったのは何時頃からなのか、静かに独居を守れば変人ときれる。多分にマスコミの所為だろうが、お互いの違いを認め合う事こそ社会の基本、すべては是より始まる。然し、限界集落などで独居を余儀なくされている老人を見ると、余りの社会格差に胸が痛むより怒りが先に込み上げる。

## 惜別

君逢六十二年前、 君に逢う 六十二年前 岸花 気高い花

私敬愛郷初志全。 私に敬す 愛郷の初志 全きを 請看 御覧なさい

可恨岸花一朝散、 恨む可し 岸花 一朝に散るも 春草 教えを受けた人々

請看春草自薰然。 請う看よ 春草 自ら薰然 薰然 徳により感化すること

畏友・田中昭三郎君が昨年逝つた。教師となつて画業に専念、先師より示現会を継承し、愛郷の志を具現し多くの後輩に感化を残した。温厚だったが彼も予科練の生き残り。

## 憂世

狂風吹断岸花枯、 狂風吹断して 岸花 枯れ 風吹き 気高い 花は枯れ

松柏凋傷時雨無。 松柏 凋傷して 時雨も無し 松柏傷んで 雨も無し

何若東瀛一孤島、 何若ぞ 東瀛の 一孤島 どうする 東海の 離れ島

斜陽空照與桑榆。 斜陽 空しく 桑榆を照らす 西日は空しく 照るばかり

桑榆：くわとにれの木、日の入る処・晩年

今や地球は大患い、マネーゲーム・環境破壊・戦争・テロ、国は行政改革・教育改革・格差是正、?と朝令暮改。不況と負担増の狭間で庶民は悲鳴、かつて言われた一億総中流意識は敢え無く消し飛んで、今更、バブルの付けの大きさに驚くが、中国の諺に苛政は虎よりも猛なりとあるが、本当に驚くのはもっと先の事。今こそわが国古来の、自然(神)を敬い・分を知り・勿体無い気配りが問われる正念場、それ以外に良薬無し。

好 日

早春和暖坐窓辺、 早春 和暖 窓辺に坐し 春の窓辺は うらうらと

膝上老猫同情眠。 膝上の老猫 情眠を同じうす 猫も居眠る 膝の上

也好莊周夢遊做、 也好し莊周 夢遊に做い 夢で 莊子の 蝶になり

双飛栩栩又翩翩。 双飛せん 栩栩 又 翩翩と 一緒に飛ぼうよ ひらひらと

窓辺の日差しは心地よい、猫はチャッカリ膝の上。世の中如何に動こうが、分を守れば不足なし、年寄りの冷や水は御法度。皆様、どうぞ好いお年を。 合掌

- Newer: [謹賀平成二十一年己丑年新春](#)
- Older: [謹賀平成十九丁亥歳新春](#)

トラックバック:0

このエントリーのトラックバック URL

<http://kyoshuu.amanijako.jp/nishiwaki/75/trackback/>

Listed below are links to weblogs that reference

[謹賀平成二十戊子歳新春](#) from 虚舟鶏肋

謹賀平成二十一年己丑年新春

- 2009-01-01 (木) 17:08

[西脇時報](#)

歳 旦

新年己丑首春迎。

新年己丑の 首春を迎え、

己丑の春を 迎えたが、

何事寇偷迷路横。

何事ぞ 寇偷 迷路に横わるは。

大盗人が 居直おつた。

世紀危機未曾有。

世紀の危機 未だ曾って有らず、

百年一度の 危機なるも、

扶桑衆志必成城。

扶桑の衆志 必ず 城を成す。

日本 必ず 大を成す。

寇偷 外敵の盜賊

敵しい年始と成りました。然し昭和二十一年は戦後復興第一年。そして平成二十一年は新生日本の第一年。昨年の変」を受けて「西」を見直す最大の機会と思えば又別。

## 慨世

世情混沌歳星移。

世情混沌として 歳星移り、

世の中乱れて とし月移り、

内外難題累卵危。

内外の難題 累卵 危うし。

卵積むよに 問題の山。

社鼠横行蔵蕩尽。

社鼠 横行して 蔵 蕩尽し、

鼠 気ままに 蔵喰い尽し、

無為無策見機遅。

無為 無策 機を見る事遅し。

為す無く術無くやる気無し。

社鼠 神殿の鼠（人の手出しが出来ない役人）

国よりも 党を重んじ 党よりも 身を重んずる 人のむれ哉」と憲政の神様と言われた尾崎行雄をして嘆かした集りなので当節驚くに値しないが、それにしても選挙を前にした議員諸子の次元の低さと、就中、社保庁の不正は言語同断。

## 温故

福王山頭憲賀名。

福王山頭 憲賀の名、

里のお寺の 憲賀さん、

故郷探訪古歌驚。

故郷の探訪 古歌に驚く。

あなたの歌に 驚いた。

花鳥風月吟自在。

花鳥風月 自在に吟じ、

花鳥風月 折り込んで、

一柱碑銘蘊蕃明。

一柱の碑銘 蘊蕃明かなり。

自在に詠んだ その知恵に。

蘊蕃 学問・技芸の深い知識

散りて行 花に方便なかりけり 兜 霧雲晴れて 有明の月」中区・奥中の観音寺の除夜灯にこの句が刻まれている。（兜・リ・カモ 助動詞の過去形「けり」に使用され、花鳥風月を表現） 昨年は古文書に接する機会が多く 中でも巴流

と云われた奥村家の謙斎先生が長崎に遊学し、シーボルト(氏勃徳)に弟子入りした碑文やそれを記した格調の高い詩文は出色だった。かつての中町は文化の香り高い地方であった一つの証拠。

## 守 愚

凡凡過客又平平。 凡凡たる過客 又平平、 気ばかり焦って 月日は過ぎる、

瘠土孤吟方寸耕。 瘠土に孤吟して 方寸を耕す。 独り呻いて 瘠せ地を反す。

閑却今人温故道。 今人 閑却す 温故の道、 大事な道を 皆放り出し、

扶桑根幹以何成。 扶桑の根幹 何を以てか成る。 肝心 要を 見失う

過客 旅人 月日 瘠土 この場合 漢詩文を云う

こんなにも若者が希望を失いやる氣を無くしたのは誰なのだ。昭和シングルは恐慌の真っ只中に生まれた、然しもつと希望があった。神国と教えられたのは見事に裏切られたが、絶望の中から学んだものは知的にも風土的にも素晴らしい国の発見だった。

## 孤 嘯

老来猶未夢魂醒。 老来 猶お未だ 夢魂さ醒めず、 歳はとれども 夢猶お覚めず、

仰見玄穹意自尊。 仰ぎ玄穹を見れば 意自ら寧し。 空を仰げば 心も和む。

独坐不孤吟骨健。 独坐して孤ならず 吟骨健なり、 独り坐しても 一人じゃないぞ

方観对我在光星。 方に我に対して 光る星あるを観る。 我に向かつて 光る星在り。

孤嘯 独りつそぶく

光る星の発見。生きるに値する人生にして、艶を添えてくれるものその物。是こそ神・仏。霜を凌ぎ雪に耐えうる、安らかな生甲斐の絶対条件、請看脚下。 合掌

- Newer: [謹賀平成二十二庚寅歳新春](#)
- Older: [謹賀平成二十戊子歳新春](#)

## トラックバック:0

このエントリーのトラックバック URL

<http://kyoshuu.amanjako.jp/nishiwaki/80/trackback/>

Listed below are links to weblogs that reference

[謹賀平成二十一年己丑年新春](#) from 虚舟鶏肋

## 謹賀平成二十二庚寅歳新春

2010-01-01 (金) 9:24

• [西脇時報](#)

播磨漢詩人社 石斛庵 虚舟 竹内正佳

### 新生

新年迎得幸生臨、 新年迎え得て 幸生に臨む、 新年迎えて 命を貰うて、

八十人生恩義深。 八十の人生 恩義深し。 生きる数だけ 恩がある。

猶有老軀風骨健、 猶お有り老軀 風骨健なるを、 年は取っても まだ気は確か、

山居也好吐清吟。 山居也た好し 清吟を吐かん。 郷の清かを 詩にせん。

明けましておめでとうございます。 慌しい世相の中で十分の一世紀を迎えました。 人生六十一が還暦で第二の人生ならば、平均寿命を越える八十は第三の人生。 生かされた命を「幸生」と云うが、この認識が宗教本来の原点、命は総てに繋がる。

### 南天竹

照葉真紅映夕陽、 照葉 真紅 夕陽映え、 赤い葉っぱが 夕陽に映えて、

子立凌霜赤心光。 子立 凌霜 赤心光る。 寒さに負けずに 心が光る。

寒庭坐愛南天竹、 寒庭 坐に愛す 南天竹、 何も無いけど 南天あれば、

飽見神工無限場。 飽き見る神工 無限の場。 今日の命は 見飽きない。

子立く孤立

窓先の庭の南天が赤く色づいて陽に輝き、息を呑むような美しさ。 自然は何時も思はぬ処に巧まぬ技を見せてくれる。

ネット電網社会



依存電網井中蛙、 ネット電網 依存は 井の中の蛙、 ネット人種は 井の中の蛙、

株守壺天風信賒。 壺天に株守して 風信を賒る。 一極集中すべてを 鵜呑み。

不解春秋寒與暖、 解せず春秋 寒暖と、 四季の移りや 温もり知らず、

浮塵吞却幻蒼霞。 浮塵を吞却して 蒼霞を幻ず。 人工飼育の ブロイラー。

株守と同じ事をする 壺天と別世間

今の社会をネット社会と云うそうだが、地球を網羅した情報が一方的な洪水のようにやってきて、真偽も分らないまま量に圧倒されてしまう、果たしてその結果は？

## 杏 林 杏林と医者的美称

今日杏林追日更、 今日の杏林 日を追って更まり、 脈を診るのも 昔と違い、

電磁神手鬼工生。 電磁の神手 鬼工を生ず。 神と人との 意が通う。

心冠脈裏人為用、 心冠脈裏に 人為を用い、 心の臓にも 人手を用い、

九死迂回延壽迎。 九死を迂回して 延壽を迎う。 翳る夕陽が 亦光る。

鬼工と神技 心冠脈裏と冠動脈中

偶然の不整脈の発見から、冠動脈狭窄が明確になり、カテーテルでの補修を体験した。

永く内科の診療は受けた経験が無い、見るもの聴くもの驚きばかり、やがては自分の細胞培養で治療が出来るようになるう、矢持健・井関治・両先生に深甚の感謝。

## 古 梅

寒庭一木老芳梅、 寒庭 一木 老芳梅、 庭に一本 古びた梅は、

耐雪凌霜数蕾開。 耐雪 凌霜 数蕾開く。 凍ても負けずに 僅かに開く、

不識浮生名利事、 識らず 浮生 名利の事、 浮世の事など 何知るものか、

年々歳々送香来。 年々 歳々 香送り来る。 毎歳寄こすは 好い香り。

「隅を照らす」と云う言葉があるが、自然を見れば総てはその理に適っている、只

その理に逆らうのが唯一人間、鳩山首相は温室効果ガスを二十五%削減を世界に提唱、反応は区々だが、産業界デフレ脱却の起爆剤にもなり得る要因も含み、特に農山村の再生にも多くの可能性があると思う。どうか希望の見える年でありますように。 合掌 敬白

- Newer: [謹賀平成二十三辛卯歳新春](#)
- Older: [謹賀平成二十一己丑年新春](#)

## トラックバックバック:0

このページのトラックバックバック URL

<http://kyoshuu.amaniako.jp/nishiwaki/181/trackback/>

Listed below are links to weblogs that reference

[謹賀平成二十二庚寅歳新春](#) from [虚舟鶏肋](#)

## 謹賀平成二十三辛卯歳新春

2011-01-14 (金) 0:00

• [西脇時報](#)

謹賀 平成二十三年辛卯歳 新春 播磨漢詩人社 石斛庵

### 暁霜 春色

老杉聳立白霜清、 老杉聳立して 白霜清らかに、 霜を戴き 大杉聳え

翠碧西天残月明。 翠碧の西天 残月明かなり。 翠の空に 月残る

曙色染山甦正気、 曙色山を染めて 正気甦り、 空曙に 心は晴れて

含紅樹樹欲枝萌。 樹々紅を含んで 枝萌えんと欲す。 木々の梢に 芽を孕む

生命の営みは生々流転して不断に行はれ、人は日・旬・月・四季の移転の中に喜怒哀楽を綴って行く。その地球一家・万物の中に生かされている事の自覚こそが二十一世紀の最も直近の重要な課題。 明けましておめでとぅーございます。

### 来住邸

童子山頭好鳥声、 童子 山頭 好鳥の声、 童子山から 小鳥の声が

巖然蒼色翠嵐明。 巖然たる蒼色 翠嵐明かなり。 翠清かに 蒼に映える

君知此邸粹中粹、君知るや此の邸 粹中の粹なるを、あんた知るかえ 昔の粹を

梅老遺芳転有情。梅老の遺芳 転た情有り。梅翁遺した この粹を

昨年来住邸で個展を催しました、京都・大阪・西播各地から詩・書・吟・茶の友をはじめ、多数の「来会を賜り盛会裏に終えることが出来ました。この荒んだ世の中に多くの出会いと、人々の心の中に光るものが見られ、一会のうち多くの知己を得る事が出来たことが最大の喜びであり、更に第三の人生に対する指針を得たことが最大の収穫であり、生涯忘れる事の出来ない思い出にもなりました。

## 吟 興

春夏秋冬吟道行、 春夏 秋冬 吟道を行けば、 四季の移りを吟じて行けば

風騒無尽亦縦横。 風騒 無尽 亦た縦横。 風雅は無尽に 満ち満ちて

随処随意扶桑習、 随処随意は 扶桑(日本)の習い、 時と所は 心の儘に

毎念浮雲落日情。 毎に念う 浮雲 落日の情。 常に思うは 有為の情

浮雲落日情一有為転変 常の無い様

永年、吟や歌をされている方々の健康の秘訣は、声帯と肺をフルに使う動作が全身の運動になり、しかも、そのときの感情移入が適度な精神の緊張感をともない、詩文を理解するための努力が教養につながると言う、一石三鳥にもなる効用の結果だろう。

## 桃園通関即事

護照扱関呈示時、 護照 扱関 呈示の時、 旅券差出し 緊張のとき

美嬪莞爾寿辰辞。 美嬪 莞爾 寿辰の辞。 美女がニツコリ オメデトウ

今天正是我生日、 今天正に是れ 我が生日、 今日正しく 誕生日

一服清涼言外慈。 一服 清涼 言外の慈。 清かな風が 吹き過ぎた。

桃園空港で通関のとき 您好(ニイハオ)「言いながら提示すると、ややあつて顔を見ながら タケウチサン、オメデトウ」と云ったので、 仲ム(シエンモ)ル(ア)「何ですか」(「といますと 今天您生日(チンテンニンシヤンリ)「今日はあなたの誕生日」)、あそつた、今日は誕生日だった、慌てて 謝々(シイシエイ)您(ニ)「(「ニツコリ言つて通関した。うっかりすると家族からも忘れられかねない今日」の頃、見知らぬ他国の係官の娘さんから、おめでとつと言われた貴重な「トコロ」でした。

## 賀 江口大象先生日展会員賞受賞

葉隠逸材持節流、大江無限亦悠々。不言桃李成蹊裡、奇器時宜燦八州。

葉隠はがくれの逸材 節を持って流れ、 大江 無限 亦た悠々。

桃李言は不れども 蹊成るの裡、 奇器時宜しく 八州(日本)に燦たり。

葉隠(武士道)・佐賀県のこと・ 大江・長江を先生の人柄に例えて

奇器・素晴らしいうつわ(人材)と(小坂奇石先生の高弟であった事の意)

昨年、大阪の書家・江口大象師が日展会員賞を受賞された、しかもその近作・大作が近隣の数ヶ寺に寄贈して下さる事になり、すでに納まっている所もあります、時期が来れば盛大に披露されますのでご期待下さい。今年はいよいよお歳でありますように。

• [Newer: お知らせ](#)

• [Older: 謹賀平成二十二庚寅歳新春](#)

トラックバック:0

トラックバックのトラックバック URL

<http://kyoshuu.amanjako.jp/nishiwaki/562/trackback/>

Listed below are links to weblogs that reference

[謹賀平成二十三辛卯歳新春](#) from [虚舟鷄肋](#)

プロフィール

• 2010-11-06 (土) 13:31



竹内 虚舟(たけうち きよしゆづ)

昭和4年11月21日生、兵庫県多可郡多可町中区徳畑生まれ、県立小野中学校卒。

漢詩作法を臨濟僧・梵崎太然師に学び、老師遷化後、進藤虚籟師に就き学習の傍ら、日中友好漢詩協会・棚橋篁峰理事長に入会して漢詩講座に加わると共に、協会の主催する中国漢詩探訪の旅に参加、中国古典、特に現代詩の状況を学ぶ。全日本漢詩連盟・二松詩文会・大阪毎日文化センター漢詩講座に所属し、吟道賀堂流本部教養部主宰の、講演や漢詩講座の講師として、作詩指導・添削を行い現在に至る。

又、書源社主宰・日展審査員・現代書道二十人展書家・江口大象先生に師事して現在に至る。

著書 虚舟懶祭抄。詩・書・画の共催展・個展各一回。

## 虚舟鶏肋とは

• 2010-11-09 (火) 13:39



## 虚舟

字の如く何も無い空の舟。

## 鶏肋

鶏がら、つまらぬ物だが棄てるに惜しいもの。

因みに、拙著「虚舟瀬祭抄」の瀬祭(だっさい)は、瀬が捕えた魚を並べる習性から、詩を作るのに参考文献などを並べる事を言い、その意味から、空の舟に「鶏肋」を取り留めなく並べることを云う。

## 虚舟

晚秋垂老薄毛頭、

晚秋 垂老の 薄毛頭、

秋を迎えて お頭も薄く、

詩策心憂歳序流。

詩策 心憂 歳序流る。

詠い憂えて 年月 流る。

無友同行師更遠、

同行の友無く 師更に遠し、

師無く 友無く 道また遠し、

蒼波萬里一虚舟。

蒼波 萬里の 一虚舟。

大海原の からの舟。

鶏肋集より

## 著書紹介

• 2010-11-02(火) 17:42

## 虚舟瀬祭抄

虚舟獺祭抄

目次

- 随想 黄遵憲
- 西協時報・元旦掲載 漢詩コラム
- 阪神罹災百日
- 中国旅行記
- 笑和会訪中見聞録
- 華南觀光旅行記
- 第一次杜甫転蓬追慕紀行
- 第二次杜甫転蓬追慕紀行
- 第三次杜甫転蓬追慕紀行
- 辺塞詩之旅 其之一
- 辺塞詩之旅 其之二
- 訪中雜詠
- 越南紀行・雲南探茶紀行
- 書源社浙江台湾周遊
- 鷄肋集抄録
- 獺祭日記抄録

作品集

- 2010-11-08 (月) 17:26

虚舟獺祭展パンフレット 平成22年4月17日(土)～4月30日(金)

虚舟瀬祭展 裏



虚舟瀬祭展 表

